

3年生実践から見る 指導と評価

1. 単元名 「店ではたらく人と仕事」 ～わくわくをお客さんへ～

2. 学校教育目標と社会科（本単元）で目指す子どもの姿

（省略）

3. 単元目標

販売の仕事について消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し解決しようとする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の仕事の様子を理解している。	①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して問いを見出し、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。	①地域にみられる販売の仕事について予想や学習計画を立てたり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解している。	②販売する側の仕事の工夫と消費者の願いを関連付け販売に携わっている人々の仕事に見られる工夫を考え、適切に表現している。	

5. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

（1）教材化 ～消費者の願いにこたえる買い物体験型スーパーマーケットの工夫～

本単元では、学校に隣接するスーパーマーケットA店を教材として取り上げる。A店は2年生での生活科の学習の際にもまちたんけんで訪れた場所であり、子どもたちにとって身近なスーパーマーケットです。身近であるという利点を生かし、見学や家庭学習での調査など繰り返し関わる中で、追究の意欲を高められるように教材化を図りました。また、A店は3月にリニューアルオープンを果たした店舗であり、リニューアルオープンのコンセプトは「買い物体験型スーパーマーケット」です。野菜・果物売り場、水産売り場では、販売者と消費者が会話を交わしながら楽しく商品を選べる対面販売を実施していました。様々な分野で無人化、自動化が進む中で、A店ならではのよさである対面販売を取り上げ、働く人の工夫と消費者の願いを関連付けられるようにしました。

（2）学習過程 ～段階的に販売者の工夫と消費者の願いを関連付ける学習過程～

スーパーマーケットの消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高める工夫を、「見える工夫」と「見えない工夫」に整理し、単元の中盤を2つに分ける学習過程としました。「見える工夫」では、品ぞろ

えや宣伝の仕方、値段、新鮮さを保つ工夫について、見学を通して捉えた事実について、すべての工夫が消費者の願いをもとにしていることを学習しました。「見えない工夫」では、リニューアルオープン後に新たに取り入れられた対面販売について取り上げ、消費者の多様な願いを実現する働く人の工夫についてさらに追究できるようにしました。また、スーパーマーケットの学習とならないように単元の終末では、他店舗についても扱うようにし、身近な地域や川崎市の販売の仕事へ広げられるようにしました。

(3) 学習活動 ～体験的な活動を充実させ話合いの共通の土台に～

単元の前半では買い物調べ、中盤以降ではスーパーマーケット見学などの調べ活動、家庭でのインタビュー活動などの体験的な活動を多く設定しました。社会的事象の意味について考える際には、調べて捉えた事実を共通の土台として、根拠をもった話合い活動が行えるようにしました。

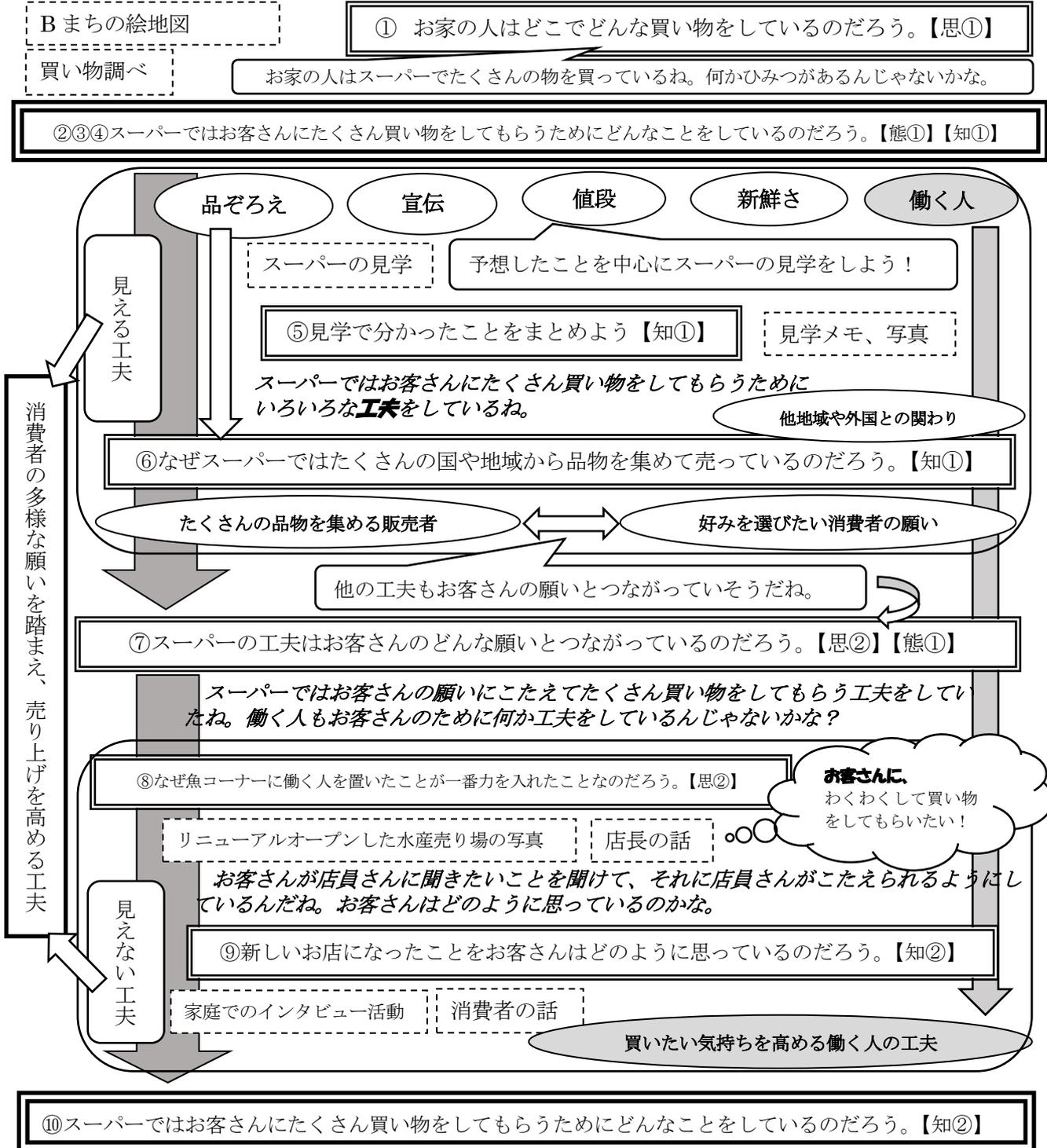
(4) 指導と評価 ～子どもの反応を見極め指導に生かす～

教師が資料を提示したり、発問をしたりした際や話合い中、見学中の子どもの反応を見極めながら学習を進めるようにしました。考えるのに難しさを感じている子どもがいたり、子どもたちの話合いの論点がずれたりした場合は、補足をしたり、発問をし直したりしながら、指導に生かしていきました。学習のまとめを書く際には、学習問題に正対して書くように繰り返し指導しました。本単元でも、常に学習問題に立ち返るように声をかけたり、学習のまとめにつながるキーワードを板書に分かりやすく示したり、ノートの記事にコメントを入れたりするなどの支援を続けました。

(5) 一人一人が生きる社会科学習 ～子どもの考えを生かした社会科学習～

一人一人が学習の中で生きるために、子どもたちがどのような考えをもっているのか事前にノートを確認したり、机間指導で把握したりすることを大切にしました。話合いの場面では意図的に指名をしたり、子どもたちの発言をつなげたりし多くの子どもが活躍できるようにしました。また、協働的な学びとするために、発言をする際には、「〇〇さんが言っていた考えにつけたして～」などと、根拠を示すように投げかけながら学び合いの雰囲気づくりに努めました。

6. 問題解決的な学習の充実に迫る単元構想



スーパーマーケットでは、お客さんにたくさん買い物をしてもらうために、品物の種類を増やしたり、宣伝の仕方や値段の付け方を工夫したり、日本中、世界中から商品を集めたりしていたよ。他にも、目の前で料理をしたり、買い物の相談にのってくれたり、お客さんの希望にこたえるためにお店の人たちはとてもがんばっている。つまりスーパーではお客さんたちの願いにこたえて売り上げを高めているんだね。

Bまちの絵地図 Bまちにはスーパーのほかにもお店があったね。他のお店でも売り上げを高める工夫があるんじゃないかな。

⑪川崎市やBまちのほかのお店でもたくさん買い物をしてもらうために工夫をしているのだろうか。【知②】

他店の工夫 副読本「かわさき」 地域への愛着

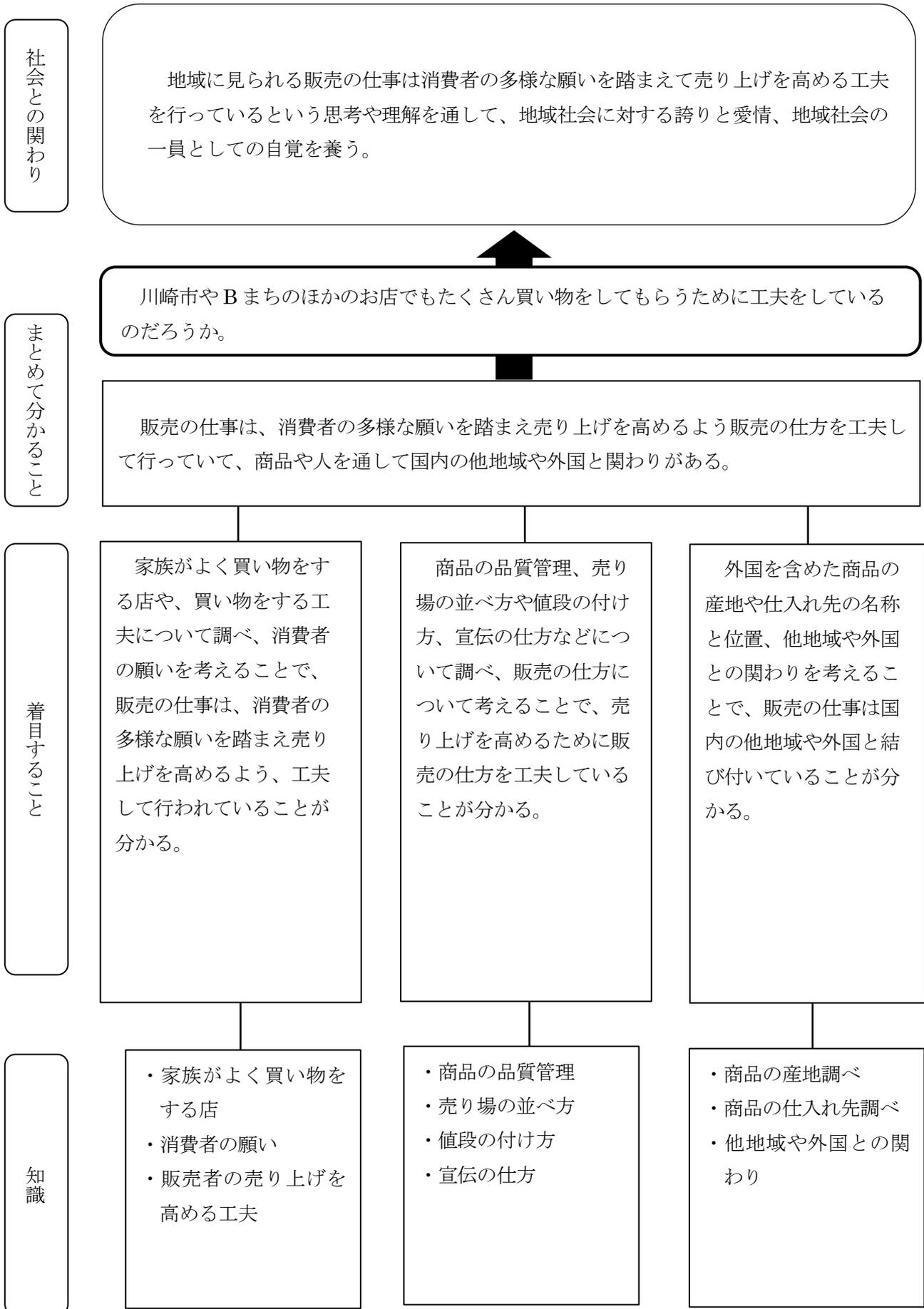
自分たちのまちや川崎市には、こんなにお客さんの願いにこたえて買ってもらえるように工夫をしているお店があるってすごいな！

7. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（13時間）※ は評価したことを記録に残す場面

本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価規準】
①家の人の買い物調べの結果について話し合い、学習問題をつくることができるようにする。	○B まちの店の分布や種類について調べる。 ○買い物調べをした結果から単元を見通す学習問題をつくる。	◇B まちの絵地図 ◇買い物調べの結果	発言やノートへの記述から「買い物調べの結果に着目して問いを見出しているか」を評価する。 【思－①】
②学習問題の解決に向けて予想し、学習計画を立てることができるようにする。	○単元を見通す学習問題について予想し、学習計画を立てる。	◇買い物調べのクラス結果	発言やノートへの記述から「販売の仕事の様子について予想や学習計画を立て、解決への見通しをもっているか」を評価する。 【態－①】
③④スーパーの販売の様子を見学したり、聞きとったりして、販売の仕事の様子について理解できるようにする。	○スーパーの販売の様子について、視点をもとに見学や聞き取りをして調べる。	◇スーパーの見学	ワークシートやノートへの記述から「必要な情報を集め、販売の仕事は様々な工夫をしていることを理解しているか」を評価する。 【知－①】
⑤販売の仕事は多くの商品を提供し、並べ方や値段の安さ、品質管理など様々な工夫をしていることが理解できるようにする。	○見学で分かったことを視点ごとに整理し、販売の仕事についてまとめる。	◇見学メモ、ワークシート ◇見学の様子の写真	ノートへの記述から「見学して集めた情報を読み取り、販売に携わっている人々の様子を理解しているか」を評価する。 【知－①】
⑥私たちが買っている商品は各地から届けられており、販売の仕事は、他地域と密接に関わっていることが理解できるようにする。	○商品の産地について調べる。 ○各地から商品を集めている理由について考える。	◇商品の産地表示 ◇スーパーのチラシ ◇日本の白地図	ノートや白地図への記述から「販売の仕事は、他地域と密接に関わっていることを理解しているか」を評価する。 【知－①】
⑦販売の仕事は消費者の願いを踏まえて売り上げを高めるように工夫していることについて考え、表現できるよ	○販売の仕事の工夫と消費者の願いとの関係について考える。 ○これまでの学習内容や学習計画を振り返り、分かったことと	◇これまでに学習したノートや掲示物	発言やノートへの記述から「販売の仕事の工夫と消費者の願いを関連付けて考えているか」を評価する。 【思－②】 発言やノートへの記述から「見学

<p>うにする。これまでの学習や学習計画を振り返り、さらに調べることを見出すことができるようにする。</p>	<p>分からなかったことを整理し、学習計画を見直す。</p>		<p>を振り返り、さらに調べることを見出し、追究しようとしているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【態-①】</p>
<p>⑧販売者側が対面販売を始めた理由について、消費者の願いを関連付けて考え表現できるようにする。</p>	<p>○水産コーナーで対面販売を始めた理由について考える。</p>	<p>◇リニューアルオープン前と後の動画 ◇水産コーナーで働く人の写真 ◇店長の話</p>	<p>発言やノートへの記述から「販売者が対面販売を始めた理由について、消費者の願いと関連付けて考え表現しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【思-②】</p>
<p>⑨消費者の願いを捉え、それらに対応するために販売者が工夫をしていることを理解できるようにする。</p>	<p>○販売者側が店をリニューアルしたことについて、消費者がどのように思っているのかを調べる。</p>	<p>◇家庭でのインタビュー活動 ◇消費者の話</p>	<p>発言やノートへの記述から「消費者の願いに対応するために販売者が工夫をしていることを理解しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【知-②】</p>
<p>⑩スーパーの販売の工夫について、調べたことを関係図にまとめ、販売の仕事が消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高める工夫をしていることを理解できるようにする。</p>	<p>○スーパーの消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高める工夫を関係図にまとめる。(GIGA)</p>	<p>◇これまでに学習したノートやワークシート</p>	<p>関係図の記述から「販売の仕事が消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高める工夫をしていることを理解しているか。」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【知-②】</p>
<p>⑪川崎市内の他店の販売の仕事について、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高める工夫をしていることを理解できるようにする。</p>	<p>○川崎市内の他店の販売の工夫について調べることを通して、販売の仕事は消費者の願いと関連していることについて考える。</p>	<p>◇Bまちの絵地図 ◇コンビニエンスストアの工夫 ◇副読本「かわさき」</p>	<p>ノートへの記述から「川崎市内の他店の販売の仕事も消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高める工夫をしていることを理解しているか。」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【知-②】</p>

資料. 「社会のしくみ」と「社会とのかかわり」をつなぐ理解の構造図



ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

◆ 3年部会研究の重点

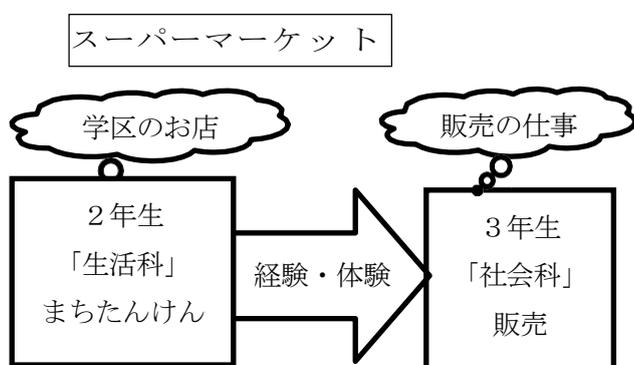
楽しい社会科、大好き川崎

～問題解決的な学習の充実を通して、川崎市に対する愛情を深める子～

【3年部会の思い】

子ども達は3年生で初めて社会科に触れます。そこで部会では、3つのことを大切にしてきました。まずは、社会科学習が「楽しい」「もっと学びたい」という気持ちを育てること。次に、社会科の学び方を身につけ、社会の仕組みの理解を図ること。そして、「川崎市ってすごい」「こんな場所に住んでいて自慢だね」「川崎市大好き」と言える川崎に対する愛情をもち、社会の一員としての自覚をもつ子を育てたいと考えました。

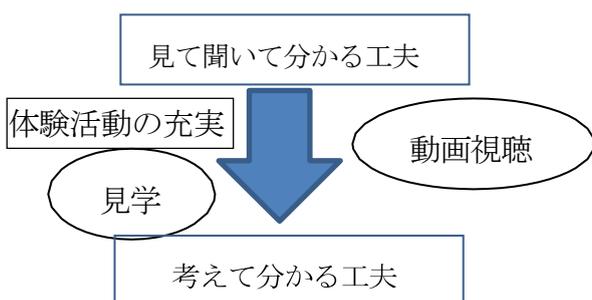
重点① 地域素材を活用し、地域への愛情を高める教材化



スーパーマーケットA店は、子どもたちの学区にある身近な店です。買い物に行く家庭も多くあります。また、2年生の生活科でまちたんけんを訪れた場所でもあり、学習のつながりを大切にしました。

本単元では、地域にある良さを生かして、子どもたちがA店と繰り返し関わり、学びを深めることをねらいました。学習を深めていく中で、地域にある販売の仕事に対する思いを高め、川崎市の販売の仕事に対する思いを高められるようにしました。

重点② 追究の意欲を高め、学びが楽しくなる教材化



地域にある教材の良さを生かし、子どもたちが実際に見学に行くことで、販売者の工夫を探す学習活動を設定しました。単元の前半では、実際に見たり聞いたりすることでその工夫に迫りました。単元の後半では、ねらいに迫るために教師が用意した動画を視聴しました。「もっと工夫があるのではないか」「見たり聞いたりするだけでは分からない」といった子どもの思考の流れを大切に、ねらいに迫れるようにしました。

重点③ 社会の動向に対応し、社会のしくみを理解する教材化

8時間目には、A店のリニューアルオープン前後の資料を提示することで、「売り上げを高めるために機械化を進めてきたのに、人の数を減らしていない」といった思考のずれを生み出しました。コロナ禍で人との接触が減らされている社会状況の中で、A店が人との関わりを大切にするという事実を知ります。それは、A店の人たちが消費者の願いを踏まえた行動であることを理解するようにしました。「販売者は消費者の願いに応えながら、売り上げを高める工夫をしている。」という理解につなげました。